

婆婆羅峠に風力発電計画

松崎町長に「健康・自然に影響」 反対陳情

地元住民グループ



風力発電事業への反対を深沢町長へ
陳情する福田代表＝松崎町役場で

下田市と松崎町の住民グループ「婆婆羅（ハサラ）峠南風力発電問題から健康と自然を守る会」（福田勝士代表、約七十

人は二十五日、同町役場に深沢進町長を訪れ、両市町にまたがる婆婆羅峠付近の山間地で計画されている風力発電事業に反対する陳情書を提出した。同会は六月、下田市にも同様に陳情している。守る会によると、風力発電事業は長崎県に本社がある風力発電会社が計画。下田市加増野から松崎町小杉原の稜線（りょうせん）に、出力二千キロワットの発電用風車十五基を建設する。風車の直径は八十二メートル、タワー高八十八メートル、最高到達点百二十一メートル。年間予想発電量約八千九百万キロワットで、二万二千世帯の電力使用量に相当。工事の着工は来年四月、稼働は平成二十三年三月の予定という。

同町役場の陳情には福田代表、事務局の寺田繁

雄副代表ら五人が出席。福田代表が深沢町長へ陳情書を手渡した。陳情書には風車が発する騒音、低周波などによる健康被害への不安や自然環境破壊への懸念を述べているほか、松崎町小杉原と下田市加増野の一部民家の至近距離に風車が建設される計画となっていること

とも指摘している。深沢町長は陳情を受け「（業者の）土地利用申請が出ていない段階だが、もし申請が出て、町民の健康被害の恐れがあるとすれば、町独自の調査をしなければならぬ。風力発電については東伊豆町にできて以来『慎重に様子を見てから』という姿勢。危険を冒してまで建てることはないと思う」と見解を述べた。同会によると、同社は今年三月に加増野、四月に小杉原で地元説明会を行っている。福田代表は「計画が進んでしまっからでは手遅れになる。

計画を見直してもらおうため、早い段階から活動している」と話した。事務局の寺田副代表は「健康被害を防ぐため風力発電先進地の欧州の基準は、民家から千六百メートル離して風車を建てることになっている。しかし、日本の基準は三百メートルで現実離れしている。この計画では、小杉原の全世帯が千六百メートルの範囲に入ってしまう」と訴えた。